

4月5日 復活の主日

見て信じなさい

ヨハネによる福音書 20 章 1～9 節

¹週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。²そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」³そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。⁴二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。⁵身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。⁶続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。⁷イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。⁸それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。⁹イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

他の朗読：使徒言行録 10:34, 37～43 詩編 118:1, 2, 16, 17, 22, 23 コロサイ 3:1～4

Lectio …読む

これは注目すべき物語です。イエスの遺体が消えたのです。マグダラのマリアがこれを発見します。彼女のイエスとの出会いについては今日に続く朗読箇所を読むことができます。

だから、この箇所では主に二人の弟子、ペトロと伝統的に使徒ヨハネであるといわれているもう一人の弟子に焦点を当てましょう。

語り手は、ヨハネは墓に置いてあった亜麻布とイエスの頭を包んでいた覆いを見てすぐに信じた、と伝えています。何故ヨハネは、イエスが生きてると信じる事ができたのでしょうか。ある作家たちは、それらの布がイエス独特のやり方でたたまれていたので、それを覚えていたヨハネが信じる事が出来たのだ、と主張します。この布をたたんだ人は誰であれ、生きていて、死んではいない。確かにそれはイエスであるはずですが、これがヨハネの復活したイエスとの最初の出会いでした。

ヨハネは彼の信じていることをペトロに分かち合ったのでしょうか。それはわかりません。伝えられていることは、弟子たちはイエスが死者のうちから復活することになっているという聖書の言葉をまだ理解していなかった、ということです。しかしこれはまもなく覆されます。

マグダラのマリア、ペトロ、ヨハネそしてその他の弟子たちは、今日に続くヨハネによる福音の朗読において、復活したイエスに顔と顔を向き合わせて出会います。

キリスト者の信仰にとって、弟子たちの目で見た証しの報告は非常に重要です。彼らはイエスが十字架で死んだことを知っており、彼らはイエスがどこに葬られたかを具体的に知っていました。その彼らがそれぞれ、復活したキリストと出会ったのです。復活したイエスとの出会いは、彼らの信仰を聖書の真理において確かめるものとなりました。彼らは言われていたこと、そして預言されていたことが本当に神の言葉であったことを知ったのです。

Meditatio …黙想する

マグダラのマリアは、墓が空であることを発見した時に何を思い、また感じたでしょうか。思い浮かべてみて下さい。

イエスが死者の中から復活したことのすべての意味を考えてみましょう。キリストの復活がキリス

ト教信仰の中心的要素といわれるのは何故でしょうか。

あなたはどのように復活の出来事の意味を友人たちに説明しますか。

Oratio …祈る

今週は詩編 118 編から 3 つの節を祈ってみましょう。

24 節「今日こそ主の御業の日。 / 今日を喜び祝い、喜び躍ろう。」

22 節「家を建てる者の退けた石が / 隅の親石となった。」

1 節「恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。」

主があなたに更に語ろうとすることに耳を傾け、あなた自身の言葉で神に感謝する時を持ちましょう。

Contemplatio …観想する

今日の第一朗読である使徒言行録 10 章 34, 37 ~ 43 節は引き続き「証し」をすることについてです。ペトロは今や大胆に、イエスは死者のうちから復活したことを宣言しています。彼が福音を告げるのは、イエスを信じることによって人々の罪が赦されるためです。

コロサイ 3 章 1 ~ 4 節において、私たちはいかに、キリストにおいて各々の復活を体験し、新しい霊的生活に入ったのか、ということについて読むことができます。だからこそ私たちは過ぎ去っていき現世的なものに心を奪われるのではなく、永遠に価値のあるものに照らされて生きるべきなのです。